

これからの学会活動に期待



早稲田大学 創造理工学部 経営システム工学科 教授
永田 靖

早稲田大学の永田です。2023年11月11日の総会をもちまして日本品質管理学会会長の2年間の任期を終了しました。理事や代議員の皆様、事務局の方々の努力により、学会活動を盛り上げていただきました。心より感謝いたします。

本年8月末に学会のニュース配信サイトが攻撃を受け、皆様のもとへ不審メールが届くという事態が発生しました。すぐに発生原因と攻撃範囲を特定し対応いたしました。1900件余りのメールアドレスが漏洩した可能性のあることがわかりました。その後の調査から、メールアドレス以外の情報を格納している別サイトへの侵入はないことを確認しました。今後、再発防止・未然防止に努めてまいります。皆様にはご迷惑とご心配をおかけしました。深くお詫び申し上げます。

この一年の学会活動を振り返らせていただきます。

今年の2月にJSQC規格テクニカルレポート「品質不正防止」を発行しました。多くの品質不正事例の報告書を読み込み、その特徴や組織の在り方をまとめた労作です。講習会を開催したところ、大変多くの方々にご参加いただきました。部分的ではありますが、日本品質管理学会の使命を果たすことができましたと考えています。本冊子は2023年度の日経品質管理文献賞を受賞しました。

第44年度会長の久保尚武氏が提唱された日本クオリティ協議会（Japan Association for Quality；JAQ）が2023年4月に設立されました。当面のあいだ、代表役員には日本品質管理学会会長が就任します。日本の品質管理活動に関わる様々な問題・課題を整理して、方向付けをしていければと考えています。

コロナ禍のもと、ずっとオンラインだった研究発

表会を対面で再開できました。研究発表会の際の情報交換会も対面で実施しました。対面により議論が活発になり、臨場感がアップすることを再認識しました。一方、講習会や講演会の多くはオンラインで開催し、早めにスケジュールをお知らせした結果、遠方の方々にも多くご参加いただきました。対面とオンラインをうまく使い分けて行事を遂行していくという戦略は功を奏したと考えています。

正会員数を増加させるという目標は達成できていませんが、賛助会員会社数は微増となっています。賛助会員向けに特別講演会を開催したり、講演会の大口参加券を配布したりしました。賛助会員のメリットを議論してきた結果です。日本品質管理学会と一緒に盛り上げてくださる企業を是非広く紹介したいという思いから、学会のホームページにおいて賛助会員会社の一覧をすぐに関覧できるようにしました。

一昨年、Asian Network for Qualityの議長に選出された慶應義塾大学の山田秀教授の努力により、2023年10月にANQのCongressがベトナムのホーチミンで4年ぶりに対面で開催されました。2024年は、慶應義塾大学でCongressが開催される予定です。その準備をすでに始めています。

次期会長の若林宏之氏（元デンソー副社長）には副会長を3年間にわたりご経験いただきました。これは異例ですが、その分、学会の弱点や伸びしろをよりご理解いただいています。安心してバトンを渡してエールを送りたいと存じます。

学会は共通の目標を持って仲間が集う場です。本学会の共通の目標は、品質管理活動をあらゆる面から支え、高める方法を開発・応用することです。これからも、それに向かって活き活きとした活動が日本品質管理学会で展開されることを期待しています。